

令和6年8月20日

高橋地域会議
会長 今井 尚 様

豊田市長 太田 稔彦

検討結果報告書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第2項の規定に基づき諮問し、答申を受けたことについて、下記のとおり報告します。

記

- 1 報告事項 令和5年12月19日に高橋地域会議から受けた『（仮称）ミライ構想』のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造に関する答申についての検討結果は別紙のとおり
- 2 主管課名 企画政策部 企画課、都市計画課

高橋地域会議からの答申に対する検討結果

	答申内容	「ミライ構想」の方向性について ・めざす姿の「人と人」とのつながりに高齢者と子どものつながりを加えていただきたいです。 ・税金を新たな施設の建設に投入するような「ないものを補う」考え方から「あるものを生かす」発想に転換し、まちづくりの基本的な考え方としていることに期待します。 ・「成長」を前提とした考え方ではなく、特に女性、子ども、子育て世代が「住みやすい」、「住んでもらえる」ことを重視したまちづくりをしてください。 ・「ミライ実現戦略2030」を考える上では、高齢者の視点に立つことを忘れないでいただき、高齢者にやさしいデジタル化を推進してください。
1	市の考え	ご意見のとおり、「つながり」については、多様な「人と人」「世代と世代」「人と地域、自然」とのつながりを通じた「気づき合い」「認め合い」「学び合い」が重要と考え、「(仮称)ミライ構想」に掲げています。 また、「ないものを補う」から「あるものを生かす」発想へ。という視点については、まずは、既にあるものを活用することを意識するという発想が重要であると考え、まちづくりの基本的な考え方として示し、行動規範として取組を進めていくことを考えています。 なお、今後5年間で特に注力する取組の方向性をとりまとめる「(仮称)ミライ実現戦略2030」において、注力する視点として、①「こども」起点でまちづくりを考える。②誰もが「つながり合う」まちづくりを進める。③人を支える「まちの基盤」をつくる。を掲げ、若い世代を含むこどもたちが多様な場で、多様な人と世代とつながり多様な経験ができるまちづくりや人生100年時代に豊かな経験・活力を次世代につなぎ、高齢者を始め、大人たちがいきいき暮らす姿を伝えることで、まちへの愛着を育むとともに、こどもたちにミライに夢と希望をつくることを目指すことを重視したいと考えており、これにより「住みやすい」「住んでもらえる」まちづくりにつなげたいと考えています。 デジタル化については、デジタルによる情報格差が生まれないよう、「誰一人取り残さない社会」を意識した取組を検討していきます。

2	答申内容	都市構造について ・拠点間や集落から拠点への移動が、不便なくできる手段を考えてください。 ・コンパクトシティの拠点内の様々な機能としてコンビニエンスストアやスーパーなどの生活必需品の購入場所、病院は必要だと考えます。 ・山間部の人々の生活に重点を置いていただきたいと思います。
	市の考え	拠点内の移動は「生活交通」として、それぞれの地域の特性に応じた持続可能な移動サービスの実現を目指していきます。 生活交通は、地域の実態に合わせて「自助・共助・公助」による様々な手段を組み合わせることで、多様なニーズに対応した移動の確保を図っていきます。 また、拠点を中心に暮らしに必要な買い物や医療などの機能の集積を図り、将来にわたって快適に暮らし続けることができるまちの実現を目指します。 都市部・山間部における暮らしの質の維持・向上を図るとともに、各地域の特色を生かしたまちづくりを進め、それぞれの拠点が連携することで市域全体の活力や新しい価値を創出していきたいと考えています。
3	答申内容	表現について ・アルファベットの略語や認知度の低いカタカナ英語を使用すると、市民には伝わりにくいため、「子育て支援日本一のまち」、「健康寿命日本一の市」など市民にわかりやすい言葉、キャッチコピーを使ってください。 ・「ミライ構想」、「ミライ実現戦略2030」という名称より、「基本構想」、「基本計画」といったシンプルな名称の方が、どのような位置づけのものかが分かり、良いと考えます。
	市の考え	表現については、市民の皆様が理解しやすい説明や表現を工夫していきます。第9次豊田市総合計画は、分かりやすく親しみやすいものとなるよう図書以外にも動画など様々な媒体を活用しながら、まちづくりの方向性を市民の皆様と共有していく考えです。 「ミライ」には現状の延長線上の未来を受け入れるのではなく、自らの行動で新しい将来を築き上げるという意味を含めています。構成の名称を変えることで、計画全体の「チェンジ・チャレンジ」意識の共有につなげたいと考えます。

4	答申内容	計画を策定する上で、幅広い年代や様々な立場からの意見を積極的に取り入れてください。
	市の考え	策定に当たり、地域会議での諮問答申のほか、こども会議や学生・外国人の方との意見交換、子育て世代を中心としたまちづくりミーティングや中間報告会等を開催し、市民の皆様から広くご意見を頂くとともに、計画について知っていただけるよう努めています。